

**2025年度 第2四半期
決算説明資料**

神鋼商事
SHINSHO CORPORATION
証券コード：8075

2025年度第2四半期 決算概況（前年同期比）

- 日系自動車および建設需要の減少や輸出環境の悪化に伴い、素材の需要が減少した一方で、エネルギー分野やものづくりへの設備投資は堅調に推移
- 価格面においては、鋼材価格、原料炭、銅・アルミ地金が前年同期比で下落
- 金属本部は減益の一方で、回転機やヒートポンプなどの機械設備の納入やメンテナンスサービスが好調に推移し、機械ユニットが収益を下支え
- 海外投資先炭鉱やバイオマス発電所では操業再開の遅れも、足元では炭鉱や一部のバイオマス発電所で再開の動き

2025年度第2四半期 実績

□ 売上高	2,928億円	(前年同期比▲4.5%)
□ 経常利益	58億円	(同 ▲5.3%)
□ 親会社に帰属する中間純利益	41億円	(同 ▲10.8%)

2025年度 通期 業績予想・配当予想

- 通期業績予想、年間配当予想については、前回公表値を据置き。
- 業績 : 売上高6,370億円、経常利益120億円、親会社株主に帰属する当期純利益92億円
- 配当 : 中間53円、期末53円（予想）、年間配当予想は106円

1. 2025年度第2四半期 連結業績概要
2. 2025年度 通期 連結業績見通し
3. 中期経営計画の進捗状況
4. 参考資料

1. 2025年度第2四半期 連結業績概要
2. 2025年度 通期 連結業績見通し
3. 中期経営計画の進捗状況
4. 参考資料

2025年度第2四半期 損益計算書

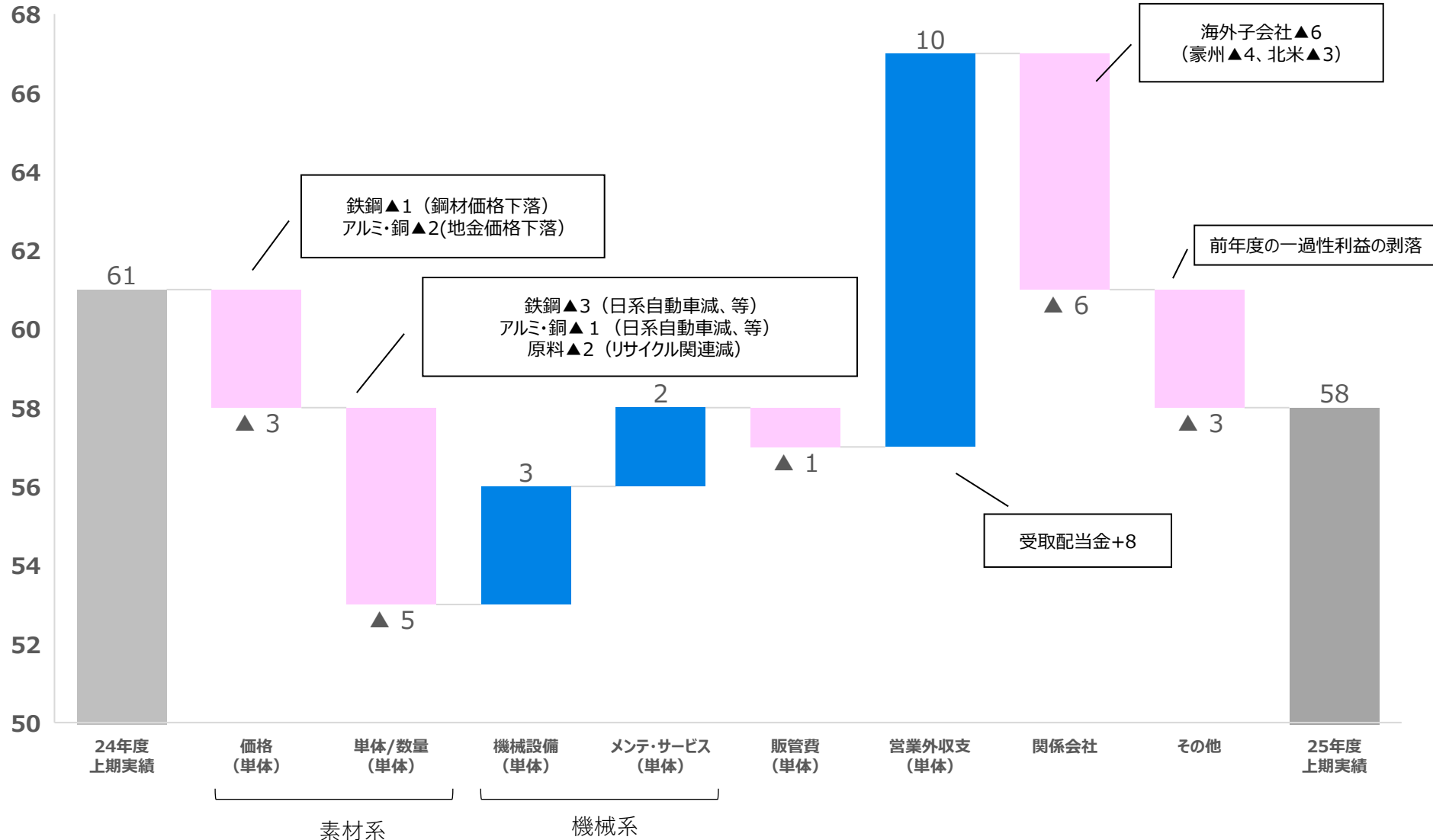
- 売上高は、主に金属本部の減収により、前年同期比4.5%減
- 営業利益は、素材系の数量減、価格下落と北米のコスト増加と原料が減少、機械系の増益でカバーしきれず同▲24.9%の53億円
- 経常利益は受取配当金の増加など営業外収支が改善し、同 ▲5.3%の58億円

(単位：億円)	2024年度 2 Q ①	2025年度 2 Q ②	増減額 ③=②-①	増減率 ④=③/①
売上高	3,067	2,928	▲139	▲4.5%
売上総利益	206	188	▲18	▲8.9%
販売管理費	136	135	▲1	▲0.6%
営業利益	70	53	▲18	▲24.9%
経常利益	61	58	▲3	▲5.3%
(経常利益率 %)	(1.99%)	(1.98%)	(▲0.01%)	-
親会社株主に帰属する 中間純利益	46	41	▲5	▲10.8%
1株当たり 中間純利益 (円)	173.00円	154.20円	▲18.8円	▲10.8%

※2025年4月1日を効力発生日として1株を3株に分割しており、2024年度の1株当たり当期純利益は3分割調整後の数値としております。

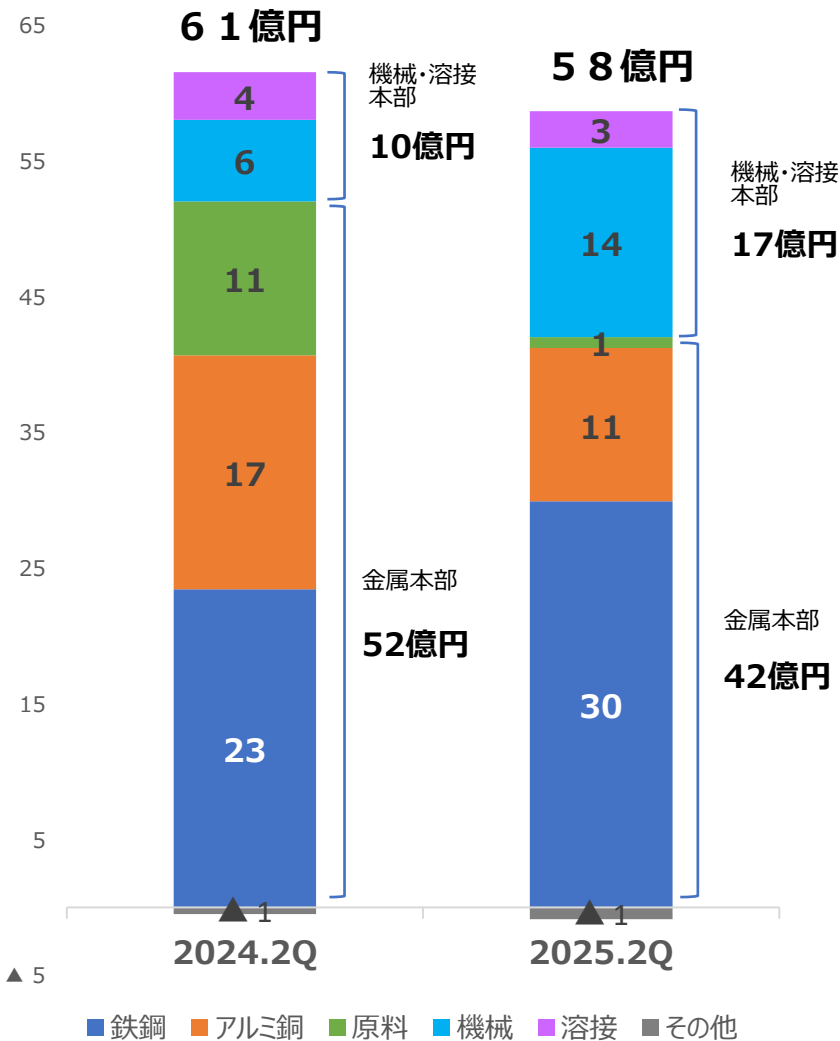
2025年度第2四半期 業績：全社 経常利益 前年同期比

(単位：億円)



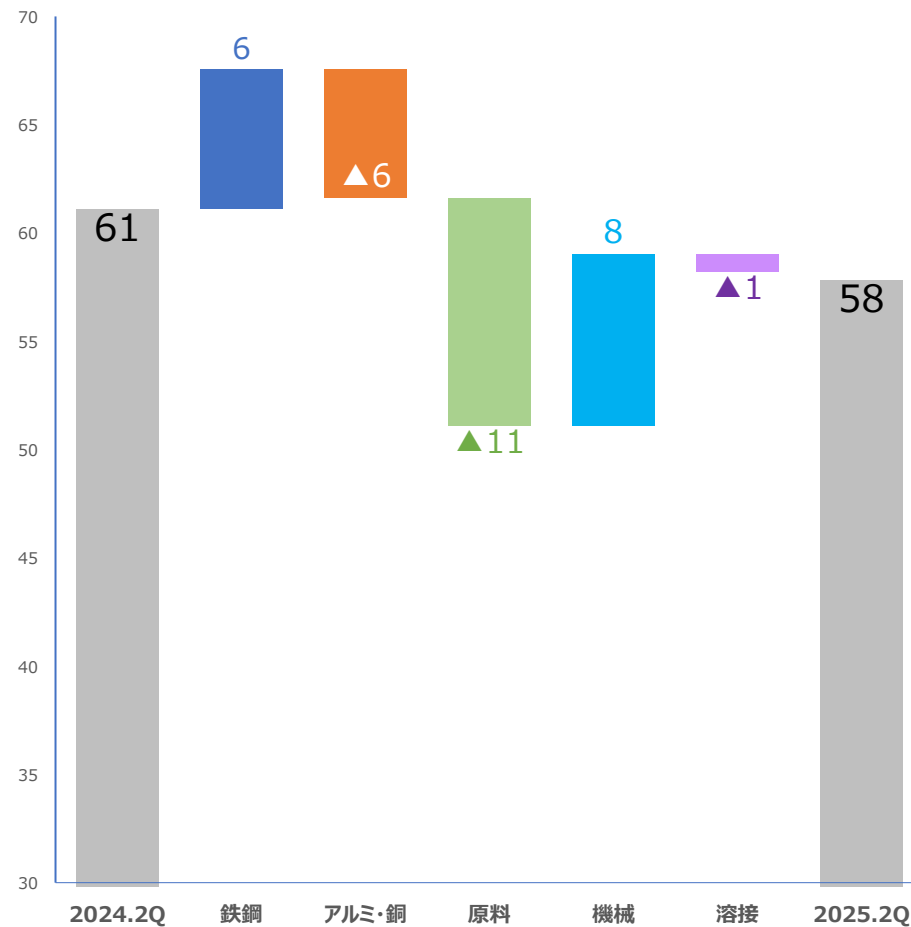
ユニット別経常利益 比較

(単位：億円)



ユニット別経常利益 増減

(単位：億円)



2025年度 ユニット別 経常利益増減要因 (金属本部 鉄鋼U)

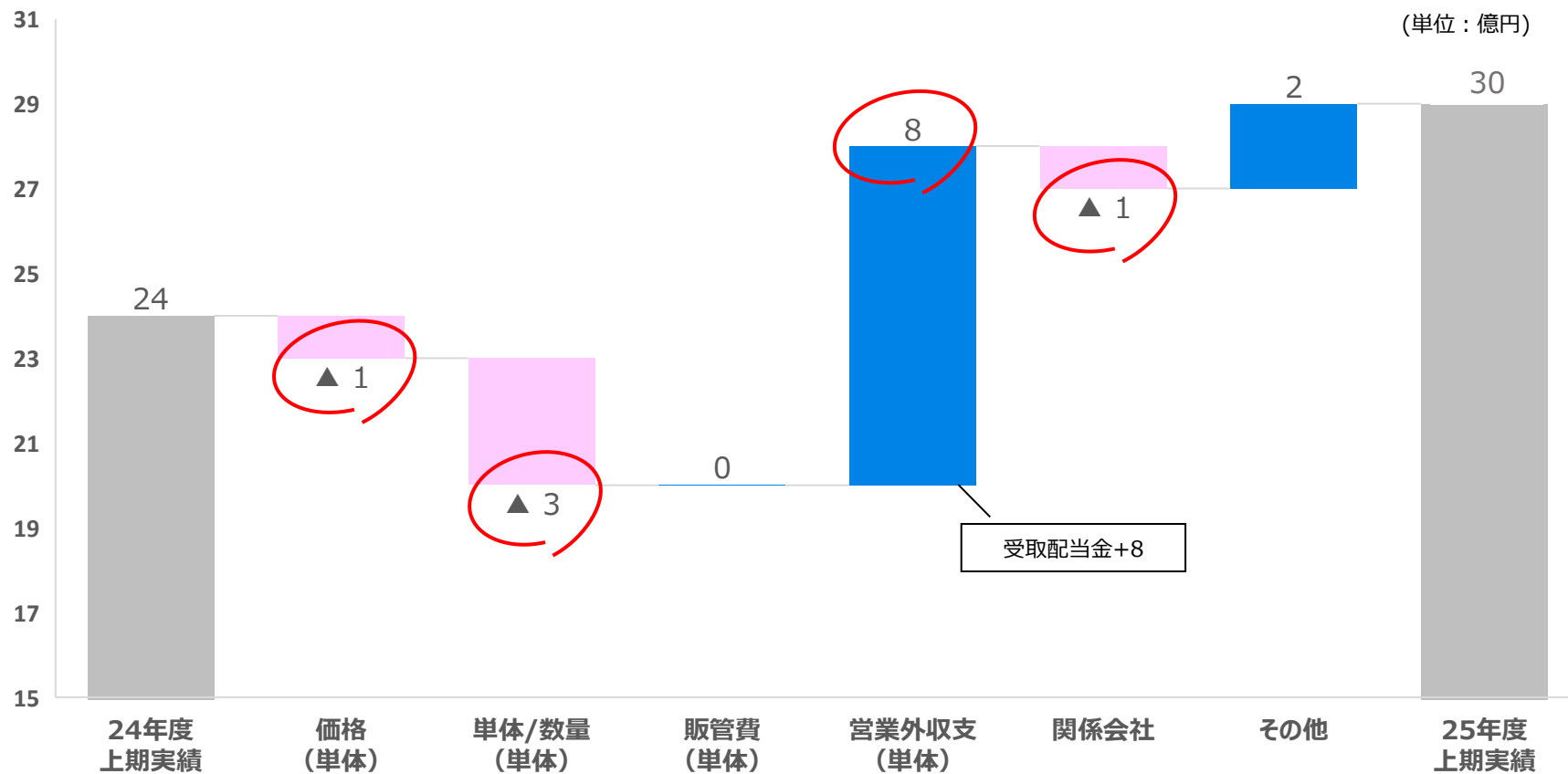
鉄 鋼

増減要因

【単体】 日系自動車の減産や建材分野の需要低迷による鋼材取扱数量の減少に加え、鋼材価格下落の影響も重なり売上総利益が減少

投資先からの受取配当金が増加

【関係会社・その他】 米国での調達・物流コストの増加により減益



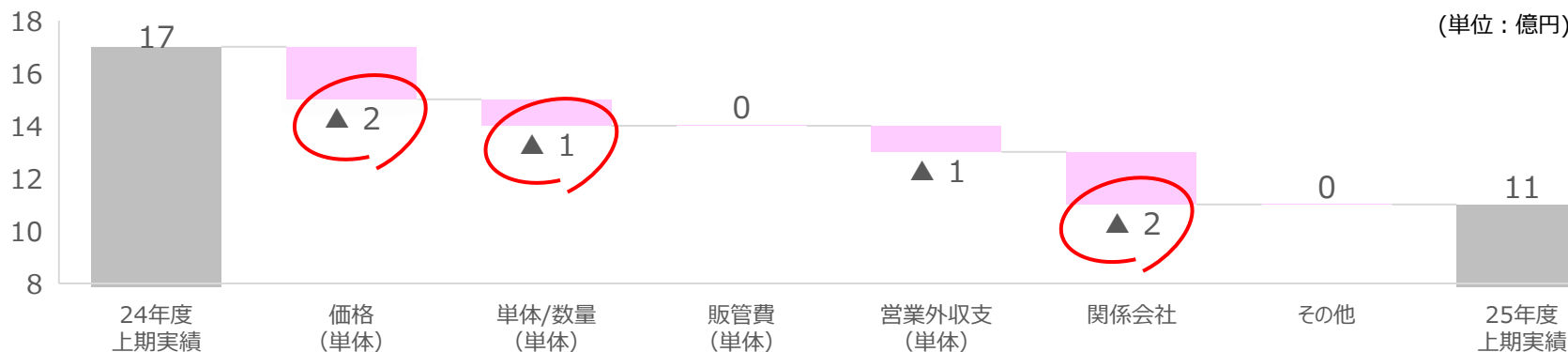
アルミ・銅

増減要因

【単体】アルミ製品は、自動車向けの取扱数量減少に加え、地金価格の下落により売上総利益が減少

銅製品は、自動車向け端子コネクタや空調銅管向けの取扱数量減少に加え、地金価格の下落により売上総利益が減少

【関係会社】半導体分野の需要減に伴い売上総利益が減少

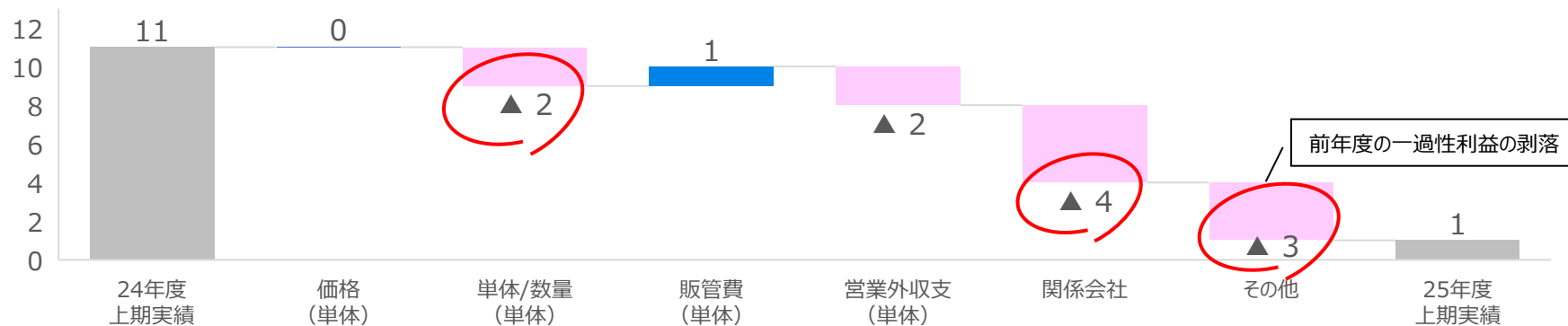


原料

増減要因

【単体】取引先の操業低下に伴いバイオマス燃料の取扱い減少

【関係会社】海外投資先炭鉱の操業不調による減益および前年度の一過性利益の剥落



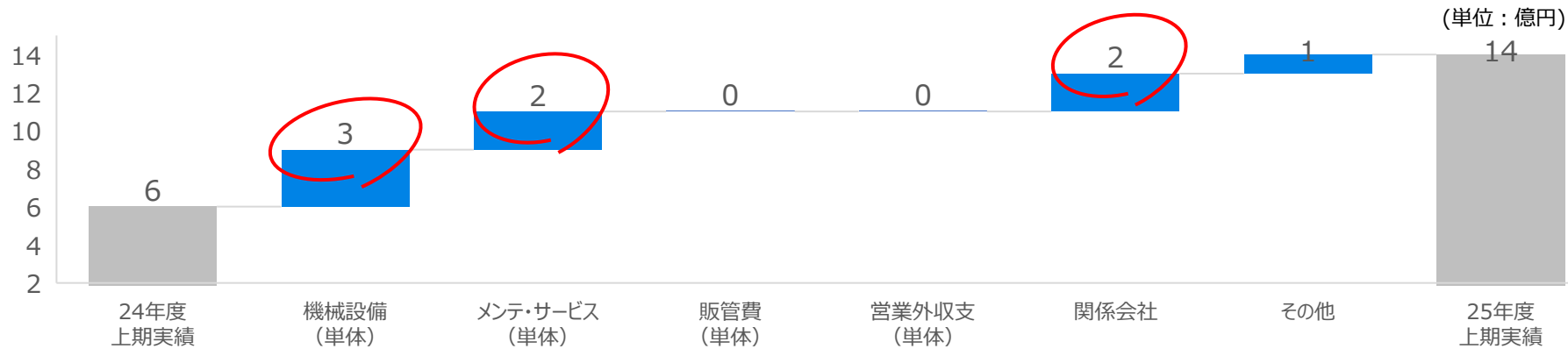
2025年度 ユニット別 経常利益増減理由 (機械・溶接本部 機械U、溶接U)

機 械

増減要因

【単体】 ヒートポンプや回転機等の機械設備の販売に加え、メンテ・サービスも好調に推移。

【関係会社】国内子会社も電気溶解炉の取扱い増加等の影響で増益。中国では、建機部品の取扱い増加。

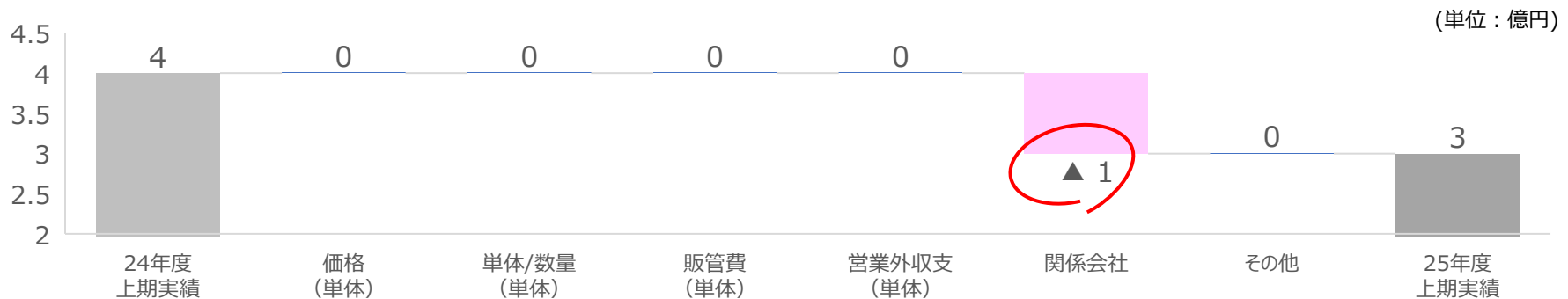


溶 接

増減要因

【単体】 溶接材料は価格上昇も、取扱量は減少。

【関係会社】 溶接材料は価格下落。国内子会社では、前年度に値上げ前の仮需発生に伴う反動で減益。



1. 2025年度第2四半期 連結業績概要
2. 2025年度 通期 連結業績見通し
3. 中期経営計画の進捗状況
4. 参考資料

【前提条件】

為替レート : 1USD=140円を想定。

(前回公表時より変更無し)



【外部環境想定】

分野	2025年度当初想定 (前回公表)		2025年度 見直し 外部環境想定	
自動車		日系自動車生産台数は、引き続き低迷 米国関税政策による需要動向は不透明		国内自動車生産台数は依然低水準も改善の兆し 米国関税前の駆け込み需要はあったが、足元落ち着いている状況
半導体		AI・データセンター向けは好転予想 自動車向けパワー半導体の需要回復には時間を要する見通し		AI・データセンター向けは好調 自動車向けパワー半導体は依然低調
資源 リサイクル		鉄スクラップは国内、海外ともに軟調 国内アルミスクラップは、溶解スクラップ比率の上昇により堅調		鉄スクラップは、国内発生量・需要ともに低調も海外が下支え 国内アルミスクラップは、堅調に推移
エネルギー (バイオマス)		取引先の操業回復により、バイオマス燃料の取扱いは増加		取引先の操業再開遅延により、バイオマス燃料の取扱いは減少 下期に一部再開の見込み

※ 事業環境想定は神鋼商事グループを取り巻く事業環境で、必ずしも一般的な事業環境とは一致しません。

前回公表値から変更ありません

- 2025年度の通期業績予想は、**前回公表値から修正無し**。
- 金属本部の鉄鋼、アルミ・銅の取扱数量は2025年度上期に底打ち。日系自動車生産台数は回復基調。
- 機械ユニットでは、メンテナンス・サービスが好調を継続し、通期で増益見込み。
- 販売管理費のコスト削減を進め、経常利益は**120億円を見込む**。
- **配当も前回公表値から修正なし**。中間配当53円、期末配当53円の年間配当106円を予定（配当性向30.4%）。

	2025年度 2Q 予想 ①	2025年度 2Q 実績 ②	2025年度 通期予想 (前回公表値) ③	進捗率 ④=②/③	進捗状況と下期見込み
(単位：億円)					
売上高	3,040	2,928	6,370	46%	価格の軟化傾向による下振れリスクは有るものの、取扱数量は底を打ち、下期にかけて回復基調。
営業利益	47	53	119	49%	
経常利益	53	58	120	48%	下期にかけて国内の自動車生産台数は回復基調。販売管理費などの削減により、経常利益は120億円達成を見込む
(経常利益率 %)	(1.7%)	(1.9%)	(1.9%)		
親会社に帰属する 当期純利益	43	41	92	45%	
1株当たり 当期純利益 (円)	162.00円	154.20円	348.00円	-	
配当金 (円)	53円	53円	106円	-	

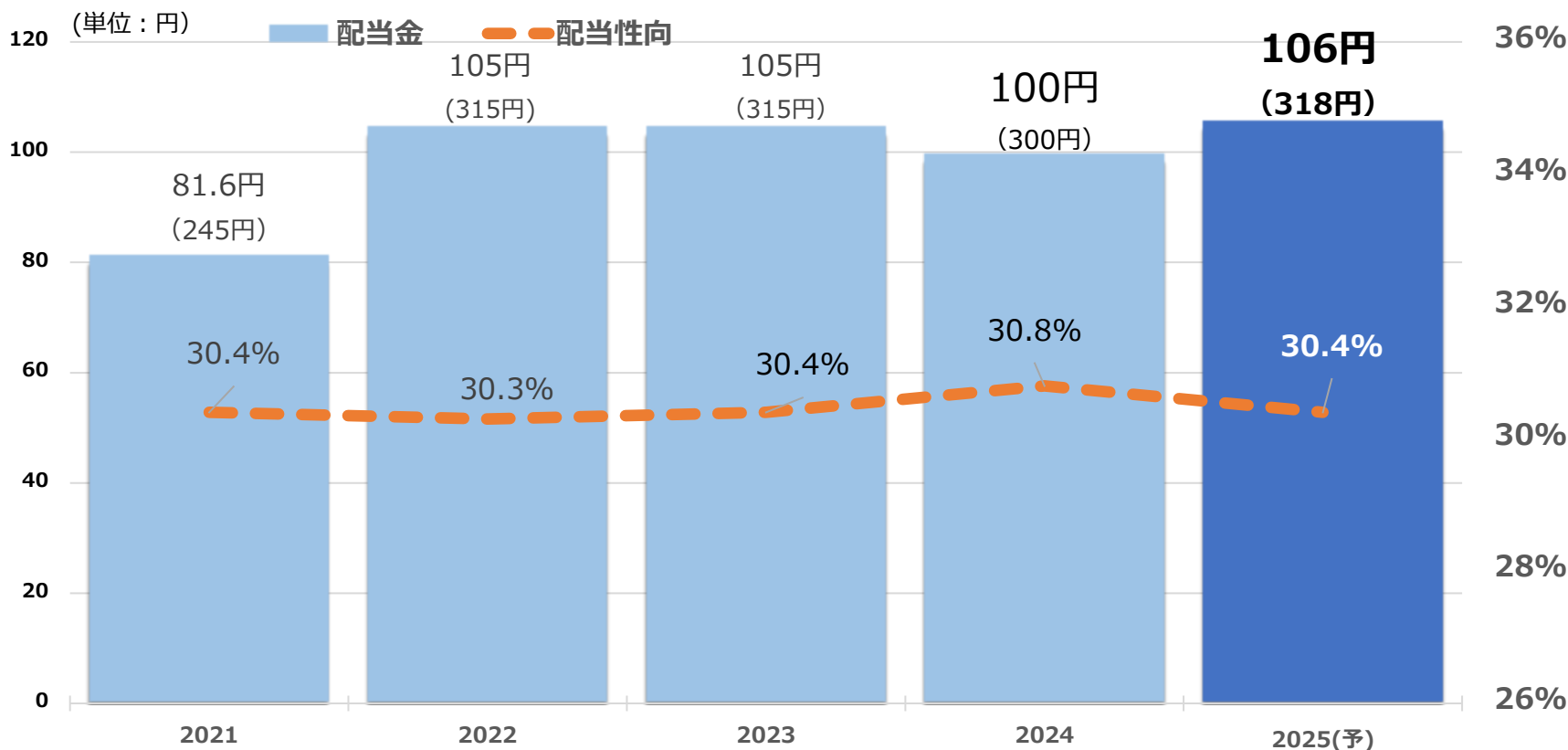
2025年度 通期業績予想 ユニット別経常利益見通し

前回公表値から変更ありません

(単位：億円)		2025年 2Q 実績	2025年度予想 (前回公表値)	進捗率	2025年度 通期見通し	理由
金属	鉄鋼	30	51	59%	→	原料価格の軟化による下振れリスクは有るものの、取扱数量は底を打ち、日系自動車生産台数は下期にかけて回復基調。 前回公表値から、大幅な乖離は無い見込み。
	アルミ・銅	11	26	42%	↘	自動車向けアルミ製品は底打ちし、下期に回復の兆しも、半導体は回復は見込めず、ユニット全体として弱含み。
	原料	1	13	8%	↓	一部発電所での再開の動きもあり、下期に回復傾向も、上期マイナス分を埋めるまでには至らず。
	小計	42	90	47%	-	
機械・溶接	機械	14	23	61%	↗	脱炭素関連設備の販売とメンテ・サービスは、下期も好調な取扱いを継続し、増益の見込み
	溶接	3	7	43%	→	
	小計	17	30	57%	-	
その他		0	0	-	-	
合計		58	120	48%	→	価格は軟化傾向も、需要は徐々に底打ちに向かう。機械・メントランスの販売増加と全社的なコスト削減により、 全体としては前回公表値から修正無し

前回公表値から変更ありません

- 「**中期経営計画2026**」での配当方針は、「連結配当性向 30%以上、または 1株あたり配当100円のいずれか高い方とする」としております。
- **前回公表値の年間配当金106円を据え置いております**（中間53円、期末53円）。



※2025年4月1日を効力発生日として1株を3株に分割しており、2021年～2024年のグラフについては、3分割調整後のグラフとしております。
2021年～2024年の（ ）内の数値は、株式分割調整前の数値、2025年度の（ ）内は株式分割前を想定した数値としております。

1. 2025年度第2四半期 連結業績概要
2. 2025年度 通期 連結業績予想
3. 中期経営計画の進捗状況
4. 参考資料

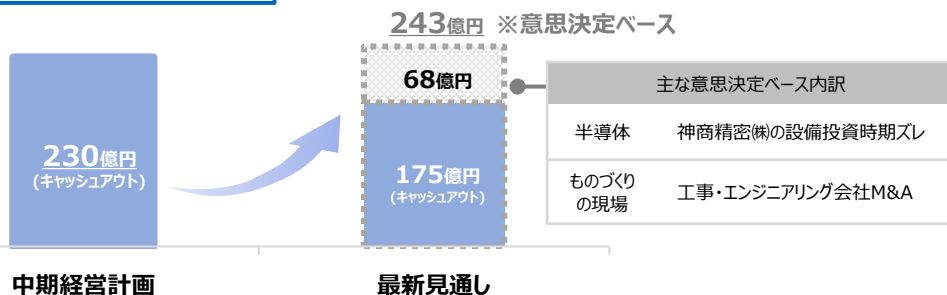
	初年度	計画2年度	最終年度
	2024年度	2025年度	2026年度
	実績	当初予想 (前回)	計画
連結経常利益	118億円	120億円	145億円
ROE	9.7%	10.0%	10.0% 以上
ROIC	6.1%	6.3%	6.5%
自己資本比率	23.6%	24.6%	21% 以上
外部有利子負債	613億円	(D/Eレシオ0.7倍以下を目安とし、資金調達を最適化)	
D/Eレシオ	0.7倍	0.6倍	0.7倍以下目安

中期経営計画進捗状況 重点取組み (赤字は今期進捗)

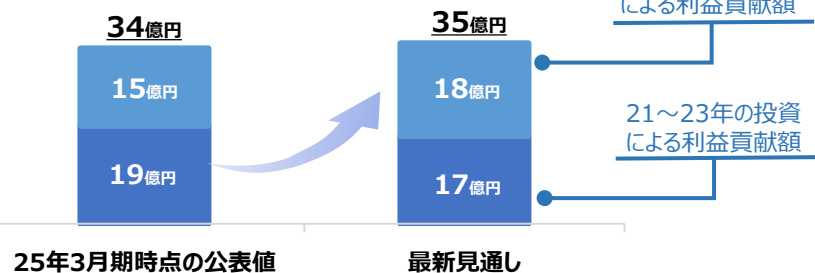
●鉄鋼ユニット ●アルミ・銅ユニット ●原料ユニット ●機械ユニット ●溶接ユニット ●新事業推進室

分野	3つの柱			重点取組み
	コベルグループ ビジネス	オリジナル サプライチェーン	SX	
自動車	● サプライチェーン強化			北米二次加工会社GBPを主体としたサプライチェーンの強化 インド市場でのサプライチェーン構築
半導体	● 半導体製造装置部品事業			24年度に設立した神商精密(株)を軸にした半導体製造装置向けアルミ加工の事業化によって製品ラインナップを拡充 ⇒神商精密(株)による工場建設用地の予約譲渡に関する協定を締結
資源 リサイクル	● 資源循環ビジネス			自動車パネルの増強、アルミサッシスクラップの格上げ事業化で水平リサイクルを拡大、加えてPCR※への事業領域拡大を検討、 国内資源循環ビジネスを強化 ⇒高度選別によるPCRスクラップのアップグレードリサイクルに向け、田口金属(株)と合弁会社設立検討の基本合意(TOPICS①)
エネルギー	● バイオマス燃料 新商品開発	● バイオマス燃料 取扱い拡大	● バイオマス燃 料新商品開発	バイオマス燃料の調達先拡大や機能強化、半炭化ペレット事業への参画によりサプライチェーンを多様化させ、グローバルでバイオ マス燃料の取扱いを拡大 (TOPICS②) ⇒(株)熊谷組、清本鉄工(株)が推進する木質ブラックパークペレット(BBP)製造・販売事業に参画 ⇒マレーシアにおいて、パートナーであるPalmitco社とLOIを締結
ものづくりの現 場	● ● 商品 + aの付加価値提供			調達先パートナーを広げて商品群を拡充するとともにメンテナンスやエンジニアリングを強化することで顧客提供価値を高めて収益 力を強化 ⇒事業領域の拡大を目的として、M&Aによる新たな事業展開を検討。
その他	● TRACK Design India(TDI) 取扱い拡大			25年度よりインドでの完全現地化(現地調達、生産、販売)を開始し、インド市場での建機部品取扱いを拡大 ⇒25年度下期より一部完全現地化を開始
DX	● ● ● ● ● サプライチェーンDX			国内外にてDX化による生産性向上、データベース化などを推進し、取引先の満足度を高め、競争力強化を図る(TOPICS③) また基幹システムの高度化に向けた取組みを開始 ⇒基幹システムの構築フェーズ開始

投資計画 3カ年合計
(2024年度～2026年度)

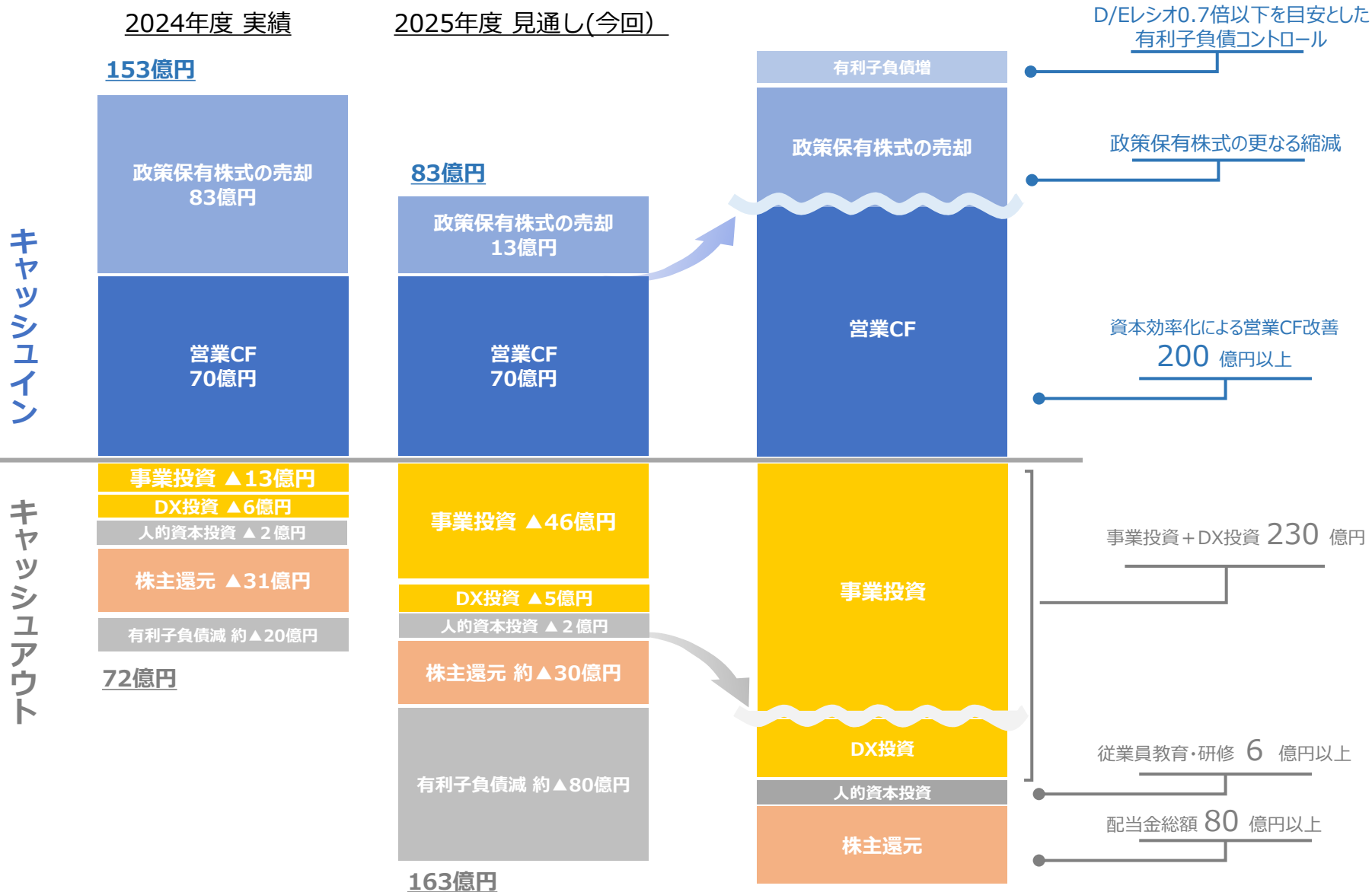


利益貢献額※ 3カ年合計
(2024年度～2026年度)



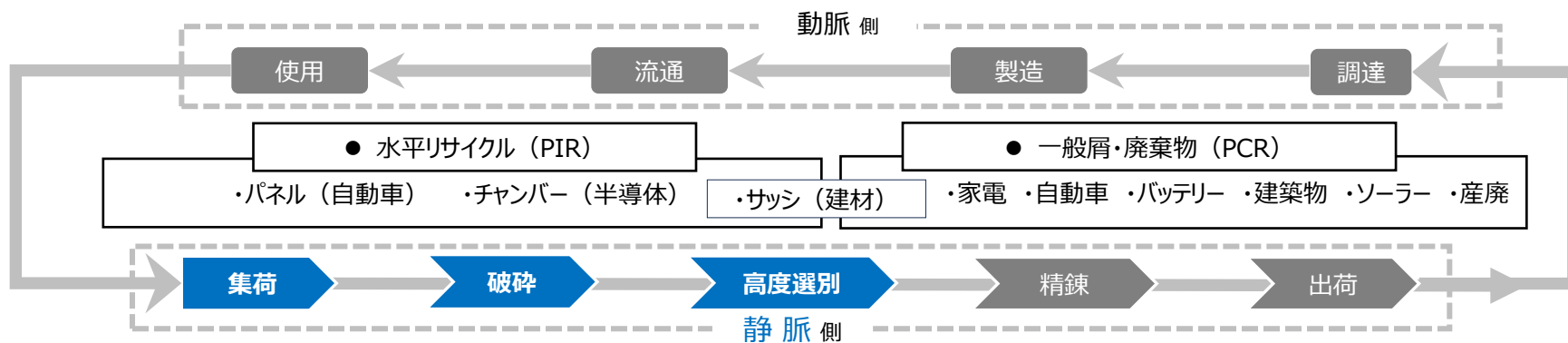
キャッシュアロケーション (イメージ図)

2024年～2026年計画累計



👉ここがポイント!

- 中期経営計画2026に基づき、積極的な投資を推進。アルミ・銅ユニットでは資源循環型ビジネスを展開。
- 製品を扱う“動脈産業”に対し、当社は“静脈産業”にも着目。製造・加工工程で発生するスクラップや一般屑、産廃屑を回収し、最新技術による高度選別を行うことで、再び製品原料として循環させる仕組みを構築。
- 持続可能なサプライチェーンを創出し、環境負荷低減と循環型社会の実現に貢献。



半導体製造装置向けアルミチャンバー加工会社

神鋼商事は神和アルミ工業と共同で、半導体製造装置向けアルミチャンバーの加工会社「神商精密株式会社」を設立を目的とし、真岡市の産業団地に工場建設用地の予約譲渡協定を締結しました。高精度加工と水平リサイクルを通じてCO₂排出削減を目指し、2028年7月の事業開始を計画。

素材調達から加工・再資源化まで一貫したサーキュラーエコノミーモデルを構築し、環境配慮型ビジネスを推進します。



※チャンバー加工品

「サッシ to サッシ」水平リサイクルビジネス

建材用アルミサッシ向けのアルミスクラップ格上げ事業に参入します。自動車由来スクラップのリサイクル事業に続き、最新技術による高度選別で「サッシtoサッシ」の水平リサイクルを推進。パートナー企業と連携し、地域社会と循環型経済の実現に貢献します。

中期経営計画2026に基づき、独自サプライチェーン構築と環境配慮型ビジネスの強化を目指します。



※導入予定の選別機

PCR (Post-Consumer Recycle)

神鋼商事は田口金属と非鉄金属スクラップのリサイクル事業に関する合併会社設立を予定しております。中期経営計画2026に基づき、低品位スクラップ（一般屑、産廃屑）から展伸材合金を選別・回収する高度選別事業に参入し、資源循環と脱炭素社会の実現を目指します。

従来困難とされてきた高精度選別を可能にすることで、低炭素アルミ原料の安定供給に貢献します。田口金属の集荷力と選別ノウハウに、当社の資源循環事業の知見を融合し、新市場への迅速な対応と事業拡大を図ります。

※PCR：Post Consumer Recycleの略称で、消費者が使用した後に廃棄された製品や材料を回収し、再利用するリサイクルのこと

👉 ここがポイント！

- 熊谷組、清本鉄工が推進する木質ブラックバークペレット（BBP）製造・販売事業に出資・参画。
- BBPは、熱処理（半炭化）によって石炭代替として高カロリーで燃焼する高付加価値化されたバイオマス燃料であり、本事業は、未利用の樹皮（バーク）を燃料として活用する地産地消型ビジネス。
- 国内において外販目的でブラックペレット製造事業に取り組む先駆的な事例であり、**今後海外も含め事業化を検討。**

ブラックバークペレット（BBP）製造事業概要

会社名	ローカルエナジーシステム株式会社
本社所在地	大阪市
株主	株式会社熊谷組 神鋼商事株式会社 清本鉄工株式会社
工場名	西条ペレット工場
所在地	愛媛県西条市
竣工予定	2026年7月
敷地面積	12,000 m ²
製品	ブラックバークペレット
年間生産量	30,000 mt
原料	樹皮（バーク）

【地産地消サプライチェーンの確立】

原料調達 : 地元製材業者

BBP製造 : ローカルエナジーシステム
※従業員は地元雇用中心
※当社からも出向者派遣

販売先候補 : 主に中国地方の自家発
石炭火力発電所



地域の森林資源を 地域のエネルギーに
Local Energy System



(西条ペレット工場完成予想図)



👉ここがポイント！

- KOBELCOグループの特殊鋼線材サプライチェーンに特化したDXプラットフォームを構築中。26年度中の運用開始を目指す。
- 鉄鋼メーカーとお客様である特殊鋼線材2次加工メーカー、部品メーカーをDXプラットフォームでつなぐことにより、現在分断されている業務プロセスを統合・可視化し、サプライチェーン全体の効率化を図ることが目的。



【サプライチェーンDXプラットフォーム導入効果】

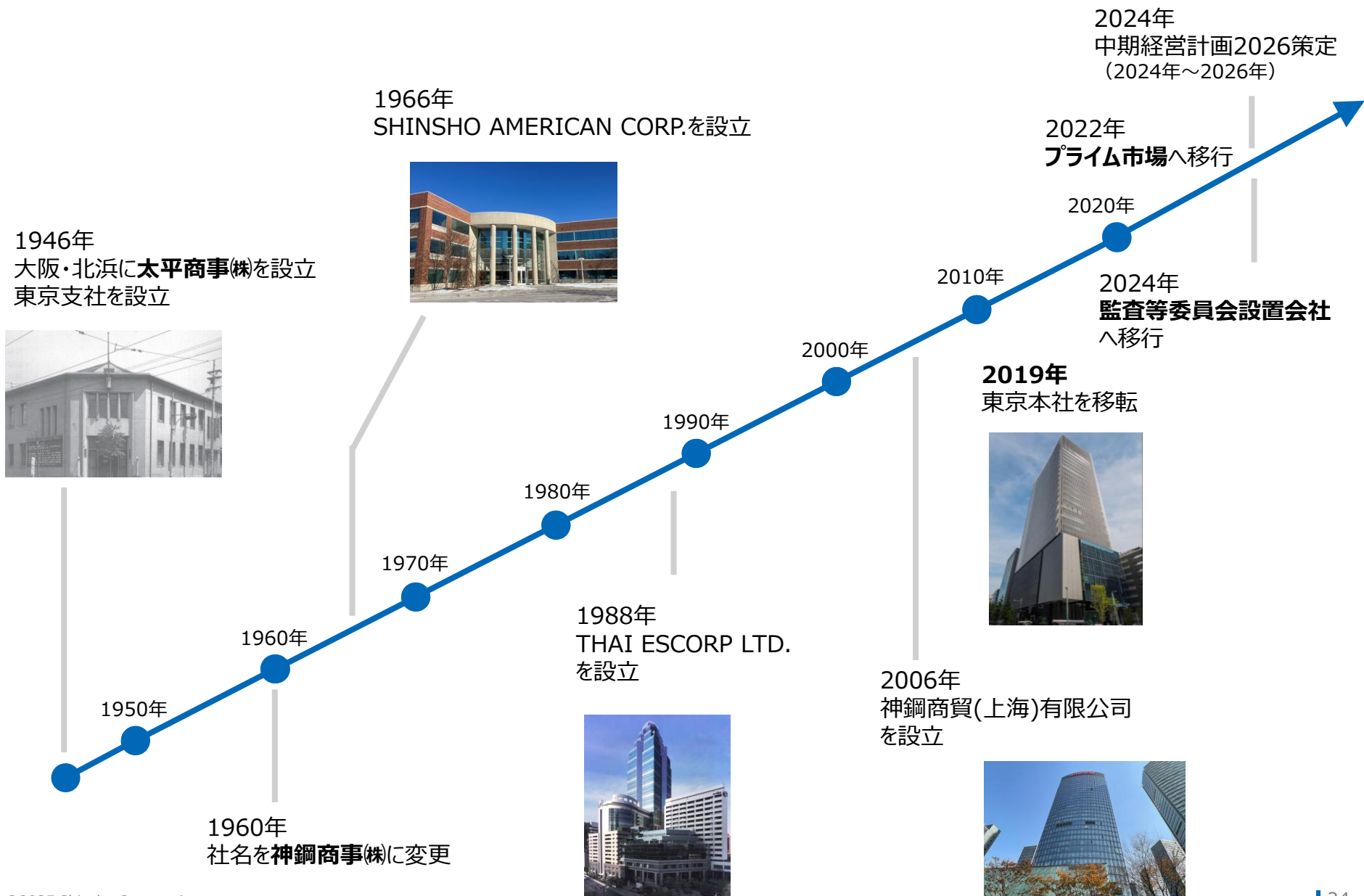
- ◆ **在庫の最適化**
需要予測と連動した在庫管理により、過剰在庫を削減するとともに欠品リスクを低減
- ◆ **業務の省人化**
受発注や納期調整などのデリバリー業務をシステム化することにより省人化・生産性の向上
- ◆ **業務プロセスの標準化**
全需要家の業務フローを統一し、標準化・可視化することでサプライチェーンを一元管理

1. 2025年度第2四半期 連結業績概要
2. 2025年度 通期 連結業績見通し
3. 中期経営計画の進捗状況
4. 参考資料

神鋼商事株式会社

(2025年9月末時点)

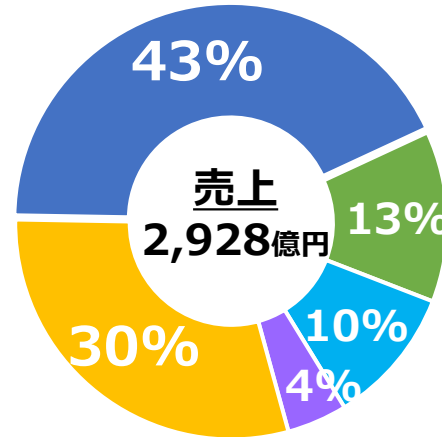
業 態	商 社
証 券 コ ー ド	東京証券取引所 プライム市場(8075)
住 所	【大阪本社】 大阪府大阪市中央区北浜二丁目6番18号(淀屋橋スクエア) 【東京本社】 東京都中央区京橋一丁目7番2号(ミュージアムタワー京橋)
創 業	1946年11月12日
連 結 子 会 社 数	41社
従 業 員 数	連結：1,507名 (内、平均臨時雇用者数 80名) 単体： 529名 (内、平均臨時雇用者数 55名)
単 元 株 式 数	100株
事 業 内 容	鉄鋼、鉄鋼原料、非鉄金属、機械、情報産業、溶材各製品の売買及び輸出入



- 当社は、金属本部（鉄鋼ユニット、アルミ・銅ユニット、原料ユニット）と、機械・溶接本部（機械ユニット・溶接ユニット）で事業を展開（2025年9月末時点）

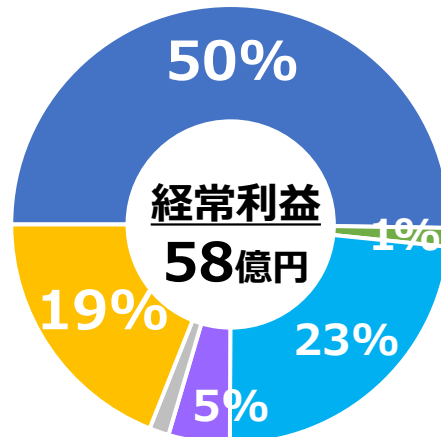
鉄鋼

自動車向けを中心に鉄鋼製品を国内・北米・中国・東南アジアに供給
北米加工拠点の強化等、設備投資・事業投資を展開



アルミ・銅 (旧：非鉄金属)

自動車・半導体・空調等へのアルミ・銅素材及び加工品の供給
スクラップ・雑電線等のリサイクルビジネス及び国内外加工拠点の強化・新設



原料 (旧：鉄鋼原料)

鉄鉱石等、製鉄所向け原料を安定供給
バイオマス燃料、鉄スクラップ等の資源循環型ビジネスにも注力



機械 (旧：機械・情報)

産業機械や建機部品、電子情報関連製品まで幅広い製品を取扱う
メンテナンスや部品などのアフターサービスにも注力



溶接 (旧：溶材)

高品質・高シェアの溶接材料に溶接ロボット等を加えたトータルソリューションを提供



【参考】 バランスシートの状況

(単位：億円)	2024年度 3月末 (2025/3月)	2025年度 9月末 (2025/9月)	増 減
流 動 資 産	3,375	3,140	▲236
固 定 資 産	493	511	18
〔 内訳 有形・無形固定資産	107	99	▲8
投資その他の資産	387	412	26
資 産 合 計	3,869	3,651	▲218
流 動 負 債	2,722	2,502	▲220
固 定 負 債	217	196	▲21
負 債 合 計	2,939	2,697	▲142
自 己 資 本	914	935	+21
非 支 配 株 主 持 分	15	18	3
純 資 産	930	954	24

外部有利子負債	613	552	▲61
自己資本比率	23.6%	25.6%	2.0%
D/Eレシオ	0.7倍	0.6倍	▲0.1倍
1株当たり純資産 (※)	3,461.4円	3,539.5円	
期末株価 (※)	1,914円	2,226円	
PBR	0.55倍	0.62倍	

※2025年4月1日を効力発生日として1株を3株に分割しており、1株当たり純資産と期末株価については、3分割調整後の数値を記載しております。

企業理念

私たちは誠実をモットーに、新しい価値の創造を通じて、
豊かな社会づくりと、みんなの幸せをめざします。

※本資料に記載されております業績予想並びに将来見通しは、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、現時点で予測可能な情報に基づき当社が判断したものであり、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、様々な要因により記述されている将来予想とは大きく異なる可能性があり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみで投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料の利用で生じた損害を、当社では責任を負いかねますことご承知おき願います。